

2013(平成 25)年度 事業報告及び附属明細書

公益財団法人国際文化フォーラム



2013年度は、当初計画していた事業を概ね順調に実施することができましたが、一部計画を変更しました。

その一つが、「互いのことばを学ぶ日中の高校生のサマーキャンプ」です。年度内実施の可能性を探ってきましたが、主催者の意向で実施を見送りました。TJFは、日本で中国語を学ぶ高校生と中国で日本語を学ぶ高校生の交流プログラムは事業の大切な柱だと考えておりますので、2014年度は、自ら主催して、実施することを決めています。

二つめは、『外国語学習のめやす』の提案を中国語と韓国語以外の言語へと広げることを目的に3年度計画で着手した『『外国語学習のめやす』カリキュラムデザイナー制度の構築』事業です。当初、制度構築をゴールとして、三本の柱をたてて進めましたが、同目的を達成するための戦略としては、「学習のめやすマスター」の育成が一番効果的であると判断しましたので、今後はこのめやすマスター研修に注力し、「めやす」の多言語展開を加速したいと考えています。

以下、主要事業を中心とした報告です。2013年度実施事業および各事業の報告は、一覧にして掲載しています。

『好朋友』参考カリキュラム完成

(公1-1 中国における二外日本語教育の促進)

市販化した日本語教科書『好朋友』が中国各地で使われることをめざし、

2012年度から5名の先生方に開発を委嘱したカリキュラムが完成しました。同カリキュラムと指導書などの資料を掲載した『好朋友教学実践指南』を2014年3月に300部制作しました。2014年4月に上海で実施した「好朋友ワークショップ」を皮切りに、TJFが実施する日本語教師研修に参加する先生方に配付していきます。

「くりっくにつぼん」ワークショップを展開

(公1-2 日本の文化と人々紹介サイト「くりっくにつぼん」の制作・運営)

「くりっくにつぼん」をより多くの日本語の授業で活用してもらうことをめざし、2013年度はコンテンツ制作に加えて、豪州(2カ所)、韓国(2カ所)でワークショップを開催しました。参加した教師からは、ぜひ自分の授業に活用してみたいとのコメントをもらいました。2014年度は豪州、韓国に加え中国でもワークショップを開催します。

野間佐和子記念寄付プログラム終了

(公1-3 米国ウィスコンシン州メナーシャ地区日本語教育支援)

メナーシャ地区は、寄付金を使って、①日本から生徒を招聘した交流や日本の中学生およびシカゴ日本人学校の生徒との交流の実施、②日本語体験遠足(シカゴ)の実施や、日本についてのクイズ大会(Japan Bowl)州大会の運営に協力するなど日本語関連活動の実施、③学区の日本語教育20周年記念行事や外国語祭り等、地域住民を対象とした行事の実施、④教員向けプロジェクトベーストラーニング研修の実施に取り組んできました。

こうした活動により、中学と高校の履修者が増加しましたが、残念なことに、市の経費削減の一環で幼稚園年長から小学5年までの外国語教育の廃止が2014年4月の住民投票で決まりました。TJFは、今後も継続される中学と高校の日本語教育をサポートしていきます。

8 言語のめやすマスターが研修に参加

(公2-2 「外国語学習のめやす」カリキュラム・デザイナー制度の構築)

「めやす」の基本理念や目標を、中国語、韓国語以外の言語のクラスでの活用につなげたいと、8言語(英、韓、西、中、独、日、仏、露)の教師18人が参加する合宿型の研修を夏と冬の2回実施しました。

夏は「めやす」を取り入れた授業案の作成、冬はその実践報告が行われました。これまで中韓の実践例のみだった「実践サポートめやすweb」に中韓以外の授業案を掲載しました。また、ドイツ語とロシア語のマスターがワークショップを共同企画する、韓国語、ドイツ語、日本語の教師が同じテーマで授業を進めるなど、「めやす」の考え方が多言語で実施されるようになっていきます。

外国語の授業と国際交流をつなぐ試み

(公3-2 協働を生み出すプログラムの開発)

2011年度から3年間、沖縄県立向陽高等学校と協力し、台湾の高校との交流を組み込んだ中国語の年間カリキュラムの開発を行ってきました。集大成となる2013年度は、クラスメートや台湾の高校生と沖縄の観光プランをつ

くってプレゼンする、二つの学校を物語仕立てで紹介する映像作品をつくって学校のホームページに掲載する、など複数の共同プロジェクトで構成しました。また、各プロジェクトのなかで必要な中国語の語彙・表現を学べるプロセスづくりに力を入れました。生徒たちは中国語を使ったコミュニケーションに積極的になったほか、相手に受け入れてもらえるように工夫して相手の意見に反論したり、提案をしたり、グループのなかで自分の役割を果たすだけでなくほかのメンバーのサポートもできるようになるなど、他者と協働する力を身につけました。本プログラムの成果は、日韓の中高校生交流事業や海外の日本語、日本国内の外国語教員を対象とした研修やワークショップに反映されています。

日韓の中高校生ソウルで合宿

(公3-4 日韓の中高校生の交流の実施)

TJFが2012年度から韓国・秀林文化財団との共催で開始した、K-POPダンスをテーマとした日韓の中高校生の交流の2回目を、ソウル市内の研修施設で4泊5日の合宿型で実施しました。参加者は日韓ともに公募でそれぞれ、16名を選考しました。

「もっと勉強してスムーズなやりとりができるようになりたい」「考え方や文化で大変だったけどいろいろなことを知ってよかった」など、参加者のコメントから、「さまざまな価値観をもった人たちがいることを知り、一緒になにかをすることに興味、関心が広がっていること」、「もっと韓国語、日本語を学びたい」という2つの目標が達成されました。

2013 年度実施事業の一覧及び各事業の報告

公 1 海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業

1. 中国における二外日本語教育の促進（定期事業）
2. 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにっぽん」の制作・運営（定期事業）
3. 米国ウィスコンシン州メナーシャ地区日本語教育支援（継続事業）
4. 日本語教育・日本理解事業に関するネットワーク活動（定期事業）

公 2 日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業

1. 「外国語学習のめやす」セミナー・講演会の共催（新規事業）
2. 「外国語学習のめやす」カリキュラムデザイナー制度の構築（新規事業）
3. 「外国語学習のめやす」の広報活動（定期事業）
4. 隣語実施校の校長交流の実施（定期事業）
5. 隣語教師研修の実施（新規事業）
6. 隣語講座の開催（定期事業）
7. 外国語関連情報提供サイト「Ringo」の制作・運営（定期事業）
8. 外国語教育・多文化理解事業に関するネットワーク活動（定期事業）

公 3 国内外の小中高校生間と教育関係者間の交流を促進する事業

1. 世界の中高校生の交流サイト「つながーる」の運営（定期事業）
2. 協働を生み出すプログラムの開発（継続事業）
3. 日中の高校生サマーキャンプの実施（定期事業）
4. 日韓の中高校生交流の実施（継続事業）
5. 交流事業に関するネットワーク活動（定期事業）

公 4 TJF の広報活動

1. 機関誌『国際文化フォーラム通信』の発行とサイトの運営（定期事業）
2. 事業報告と広報資料の作成（定期事業）
3. ウェブサイトの運営（定期事業）
4. 支援者獲得のための広報活動（新規事業）

事業名	実施時期	実施場所	事業内容	関係機関/団体
公1 海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業				29,987,559円 (内、公1共通費用*18,133,239円)
<p>1 中国における二外日本語教育の促進(定期事業)</p> <p>決算額:4,474,073円 (予算額:9,608,555円)</p> <p>減少理由:上海シンポジウムの実施時期が、3月から4月(次年度)に変更になったのため</p>	<p>①8月、12月</p> <p>②通年</p>	<p>中国吉林省長春市、遼寧省大連市ほか</p>	<p>『好朋友』第1～2巻が外語教学与研究出版社(北京)から正式出版されたことを受け、中国各地での普及をめざし、以下のことを行った。年度内に計画されていた上海市の教師研修は、第二外国語としての日本語教育について考えるシンポジウムとあわせて2014年4月に実施することとなり、2013年度は準備のみ行った。</p> <p>①好朋友ワークショップの開催 8月に吉林省長春市で実施した2日間にわたる研修(主たる対象は長春市内の教師)では、2012年度から実施している、現地在住の日本人にインタビューを行うプロジェクトワークを取り入れるとともに、『好朋友』を使った授業実践を参加教師と共有する研修を行うほか、同時期に実施された第3回中等日本語教育課程設置校工作研究会の年次大会に参加した中国各地の日本語教師約40名を対象に『好朋友』の説明会を実施した。また、12月には大連市教育学院主催の教研活動に参加した40名の日本語教師を対象に『好朋友』を使った授業実践について考えるワークショップを実施した。</p> <p>②モデルカリキュラムの開発 『好朋友』を使用した二外日本語の授業スタイルは、必修、選択、クラブ活動などさまざまである実情に合わせ、2012年度から東北三省の日本語教師5名(吉林省、黒龍江省各1名、遼寧省3名)が取り組んできた参考カリキュラムの開発は、2013年12月に集中研修をもって完成した。このカリキュラムと『好朋友』第1巻用の教師指導書等の参考資料を掲載した『好朋友教学実践指南』を制作した。</p>	<p>①、②助成:三菱UFJ国際財団</p> <p>①協力:吉林省教育学院、大連教育学院</p>
<p>2 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにっぽん」の制作・運営(定期事業)</p> <p>決算額:3,995,228円 (予算額:7,590,664円)</p> <p>減少理由:コンテンツ制作の遅れによる、翻訳料・謝金などの減少のため</p>	<p>通年</p>	<p>TJFサイト、東京、豪州、韓国ほか</p>	<p>2013年度はコンテンツ制作および日本語教育への活用を促進する広報活動を行った。</p> <p>①コンテンツ制作 インタビュー記事を掲載する「My Way Your Way」コーナーでは、「パラリンピックにかける思い」というテーマで取材、執筆した。2012年度に続き、明治大学国際日本語学部2年生を対象とした横田雅弘ゼミの日本文化発信についての授業に協力し、学生とともにテーマ選定を行った。年中行事等を紹介する「365分の1」コーナーでは高校生と大学生のレポーター8名による記事を掲載した。</p> <p>②国内外での広報活動 日本語の授業で「くりっくにっぽん」を活用する方法について、7月に豪州の学会(Australia Federation of Modern Language Teachers AssociationsとThe Japanese Studies Association of Australia)で発表した。また、初等中等教育の日本語教師を対象に、オーストラリア(シドニー市、パース市)、韓国(ソウル市、釜山市)、埼玉県国際交流基金日本語国際センター(韓国、中国の中等日本語教師向け研修)にて、授業案作成ワークショップを実施した。韓国の中学、高校の日本語教師ネットワークである韓国日本語教育研究会(以下、韓日研)が毎年春に開催している役員会(16支部から70名が参加)の会期中に、「くりっくにっぽん」を紹介するセッションを持ち、2014年度の韓国におけるワークショップの発展につなげることができた。</p>	<p>②助成:尚友倶楽部(ソウル、釜山のワークショップ)</p>
<p>3 米国ウィスコンシン州メナーシャ地区日本語教育支援(継続事業)</p> <p>決算額:2,774,150円 (予算額:2,607,505円)</p>	<p>通年</p>	<p>米国ウィスコンシン州メナーシャ市</p>	<p>米国の初等中等教育における日本語教育の拠点地域の存続と発展を図るため、ウィスコンシン州メナーシャ市のメナーシャ合同学区の日本語教育プログラムに対し、2011年度から講談社の特別寄付金として年額200万円を寄贈しており、2013年度はその最終年度となった。合同学区は寄付金を使って以下のことに取り組んだ。</p> <p>①日本から生徒を招聘した交流や日本の中学生およびシカゴ日本人学校の生徒との交流の実施、②日本語体験遠足(シカゴ)の実施や、日本についてのクイズ大会(Japan Bowl)州大会の運営に協力するなど日本語関連活動の実施、③学区の日本語教育20周年記念行事や外国語祭り等、地域住民を対象とした行事の実施、④教員向けプロジェクトベースラーニング研修実施</p> <p>なお、2013年度は、メナーシャ高校と明德義塾高等学校、メナーシャ地区で日本語を学習する中高校生とシカゴ日本人学校の生徒の交流活動に協力した。</p>	<p>特別寄付:講談社</p>

4	日本語教育・日本理解事業に関するネットワーク活動(定期事業) 決算額: 610,869円 (予算額: 1,000,500円)	通年	東京、大阪など	日本語教育学会春季大会(5月・東京)、秋季大会(10月・大阪)をはじめ、日本語教育関連の大会・研究会・会合に参加し、関係者とのネットワークを図った。 また、日本語教育学会、異文化間教育学会、日本コミュニティ心理学会、日本学校教育学会が連繫して実施する多文化コーディネーター育成プログラムのワークショップ運営にも協力した。	
公2 日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業					30,977,354円 (内、公2共通費用*22,631,130円)
1	「外国語学習のめやす」セミナー・講演会の共催(新規事業) 決算額: 2,899,534円 (予算額: 5,579,940円) 減少理由: TJFが制作費を負担する予定だった書籍が講談社からの出版となったため	①7月、8月 ②4-6月	①大阪、東京ほか	「外国語学習のめやす」の普及を目的として以下の事業を行った。 ①外国語教育セミナーの実施 「めやす」の監修者である當作靖彦・カリフォルニア大学サンディエゴ校教授による新しい外国語教育理論(ソーシャル・ネットワーキング・アプローチ: SNA)やグローバル時代の人材育成をテーマとしたセミナーを、札幌(単独主催)を皮切りに大阪(関西大学と共催)、東京(上智大学と共催)で実施し、計200名を超える参加者を得た。また、各地の大学や教育委員会、外国語教育に関する学会や研究会が當作教授を講師に招いた講演会やワークショップを実施することに協力した。各会場で「めやす」を販売し、めやすの広報にもつなげた。 ②『NIPPON3.0の処方箋』への編集協力 當作靖彦教授が前述のSNAについて執筆した書籍を講談社から出版するにあたり、編集協力をした。	①共催: 関西大学、上智大学 助成: 在日中国大使館教育処
2	「外国語学習のめやす」カリキュラムデザイナーの制度の構築(新規事業) 決算額: 2,423,150円 (予算額: 8,529,886円) 減少理由: 教本、制度作りが中止になったため	8月、12月	兵庫、滋賀	「めやす」を取り入れた授業づくりができる教員の育成をめざし、夏と冬に8言語(英、韓、西、中、独、日、仏、露)の教師計18名が参加する合宿型のめやすマスター研修を実施した。夏の研修では、「めやす」のコンセプトを理解し、自分たちが立てた学習目標を授業設計に落とし込むスキルと、設計時に意図した目標が達成されているかを評価できるスキルを身につけることをめざしたカリキュラムを組んだ。冬の研修では、それぞれが設計した授業プランを実践した結果を報告した。18名が作成した授業プランは、「実践サポートめやすWeb」に掲載している。 各言語、各地域に「めやす」を取り入れた授業づくりを広げるための方策として、三年計画で「めやす」カリキュラムデザイナー制度の構築をめざし、資格認定講座、講座用教本の作成、講座を担当する講師としてめやすマスターの育成の三本の柱を立てて進めてきたが、当初の目的を達成するためには、マスターの育成がもっとも効果的であると判明したので、今後はマスター研修に一本化し、研修修了生によるワークショップを積極的に開催することとした。	
3	「外国語学習のめやす」の広報活動(定期事業) 決算額: 884,657円 (予算額: 690,500円)	通年	TJFサイトほか	前述のめやすマスターが作成した実践例を「実践サポートめやすWeb」に掲載するとともに、外国語教育に関する情報、関連セミナー等の案内を発信し、教員をサポートした。また、さまざまな外国語教育の学会や研究会で「めやす」の広報および販売活動を行った。	
4	隣国実施校の校長交流の実施(定期事業) 決算額: 1,046,079円 (予算額: 2,313,380円) 減少理由: 中国側の委託がなくなり参加者の個人負担額が増えたことにより、参加者が当初計画の20名から3名に減少したため	①8月 ②12月	①中国吉林省長春市ほか ②東京	①各都道府県の教育行政者や学校の管理職の中国語教育に対する関心を喚起するため、2008年度から、中国国家漢弁の委託を受け、TJFが中国への派遣事業を企画・実施してきたが、2013年度は主催者の意向により委託がなかったため、TJFの主催事業として3名の代表団を中国吉林省に派遣した。新しい試みとして、中国の日本語開設校の校長ネットワーク年次大会(第3回中国中等日本語課程設置学校工作研究会)の時期に合わせて実施し、日本語の模擬授業見学、日本語・中国語教育に関する情報交換のほか、1泊2日の長白山旅行を通して両者の交流を図った。 ②これまでTJFが実施してきた中国派遣事業に参加した学校の管理職や教員を中心に、中国語教育に取り組んでいる学校関係者の交流会の2回めを実施した。今回は(1)校長のイニシアティブで履修者を増やす、(2)地域の中国語教育実施校ネットワークの可能性、(3)日中の交流を促進する各校の取り組みの報告の後、参加者が関心のあるテーマにわかれて、日ごろの課題やその解決方法についてグループで話し合った。中国語の授業の相互見学や共同授業、生徒の交流につながる計画も持ち上がった。	①助成: (公財)東華教育文化交流財団 ②在日中国大使館教育部

5	隣語教師研修の実施(新規事業) 決算額:15,230円(予算額:95,072円)	6-7月	中国北京市または上海市	中国国家漢弁が世界各国の中国語教師を対象に実施している教師研修において、日本の高等学校の中国語教師を推薦する資格をTJFが取得した。2013年度は神奈川県立高校の教師1名を推薦した。	主催:中国国家漢弁
6	隣語講座の開催(定期事業) 決算額:114,607円(予算額:608,000円) 減少理由:講師との会合回数が予定より少なかったため	通年	東京、神奈川県、千葉ほか	中国語と韓国語の授業が実施されていない高校の生徒を主な対象に、中国語と韓国語を学習する機会を提供した。 ①中国語講座 2013年度より新たに千葉県高等学校中国語部会と協力して千葉県内の高校生を対象とした土曜講座(9月～12月、計10回)を実施し、県内の計6校から11名が参加した。中国の人と交流ができる初歩的な力を身につけることをめざした内容とし、最終回では、講座の成果を試す機会として、神田外語大学の中国人留学生を招いた交流会を実施した。 桜美林大学孔子学院(神奈川県とその周辺地域対象)が実施する土曜中国語講座に協力した。 ②韓国語講座 駐日韓国大使館韓国文化院、韓国文化院世宗学堂と「中高校生のための韓国語講座」を共催した。東京韓国教育院からの講師派遣による拓殖大学第一高等学校の韓国語講座実施に協力した。いずれも2013年度は3年度めとなる。	①共催:千葉県高等学校中国語部会 助成:在日中国大使館教育処 ②共催:駐日韓国大使館韓国文化院、 駐日韓国文化院世宗学堂
7	外国語関連情報提供サイト「Ringo」の制作・運営(定期事業) 決算額:73,388円(予算額:161,400円)	通年	TJFサイトほか	「校長の出番」「先生の輪・話・和」「先輩につづけ」の人物紹介コーナーと、「注目の1枚」の文化理解コーナーを中心に、コンテンツの充実を図った。また、Ringoメルマガを通じて、研修やワークショップ等の情報を積極的に発信した結果、メルマガ登録者は100名ほど増え543人となった。	
8	外国語教育・多文化理解事業に関するネットワーク活動(定期事業) 決算額:889,579円(予算額:1,870,176円)	通年	日本国内各地	ソウルで開催される国際韓国語教育学会のほか、高等学校中国語教育研究会全国大会(6月、名古屋)、高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク(JAKEHS)全国研修会(11月、東京)、外国語授業実践フォーラム、複言語教育研究会、一般社団法人日本外国語教育推進機構(JACTFL)のシンポジウム(2014年3月、東京)などに参加し、ネットワークを広げるとともに、情報収集とTJFの広報に努めた。	
公3 国内外の小中高校生間と教育関係者間の交流を促進する事業					25,050,224円 (内、公3共通費用*17,153,415円)
1	世界の中高校生の交流サイト「つながー」の運営(定期事業) 決算額:552,120円(予算額:1,252,902円) 減少理由:サイト終了作業に伴うトラブル対応費が発生しなかったため	通年	TJFサイト	2007年度の開設以来、国際交流に関心のある国内外の中高校生、日本で外国語を学習している中高校生、海外で日本語を学習している中高校生たちが、母語や学習言語を使って、さまざまな背景をもつ人たちと知り合い、コミュニケーションする場を提供してきた交流サイト「つながー」を2013年6月をもって終了した。 本事業を通じて得られた関係者とのネットワーク、デジタルツールの学校への導入に際して必要なサポートや授業での活用方法などのノウハウは、交流事業等に引き継いだ。	

2	<p>協働を生み出すプログラムの開発(継続事業)</p> <p>決算額:1,879,399円 (予算額:4,638,297円)</p> <p>減少理由:講師が謝金を辞退。講師派遣取り止めのため</p>	通年	沖縄、台湾、東京、インターネットなど	<p>日本の高校生を主な対象として、コミュニケーション力や協働力の育成をめざした交流プログラムや外国語等のカリキュラムを開発、提供したほか、教師向けに研修の機会を設けた。</p> <p>①2011年度から沖縄県立向陽高等学校と協力し、同校の中国語の授業に台湾の高校との交流活動を組み込み、コミュニケーション力や協働力を育成する試みを行ってきた。年間のカリキュラムは、「来沖する台湾の高校生に向けて沖縄の観光プランをプレゼンする映像をつくる」、「台湾の高校生とグループにわかれてグループキャラクターをつくり、キャラクター入りの学校紹介写真を撮影して交換する」「二つの学校をストーリー仕立てで紹介する動画をつくって学校のホームページに掲載する」など、複数のプロジェクト活動で構成されている。台湾の高校生との意見やデータのやりとりは、インターネット上につくった両校のプラットフォームで行ったほか、TV会議も実施した。中国語の学習は、各プロジェクトのゴールを達成するために必要な語彙・表現を学びながら使い、プロジェクト終了後、重要な文型・語彙をさらに復習をするという方法で進めた。今後は、3年間の課題と成果を整理して公表するほか、TJFの教員研修事業などの内容にも反映させていく。</p> <p>②聖心インターナショナルスクールの協力を得て、プロジェクト型学習を取り入れた日本語の授業を公開してもらった。これまでTJFの事業に関わった教師に授業を見学してもらい、プロジェクト型学習を通じて協働力や思考力を育てる教育方法について考える糸口とした。</p>	①協力:沖縄県立向陽高等学校、高雄 市立高雄高級工業職業学校など
3	<p>日中の高校生サマーキャンプの実施(定期事業)</p> <p>決算額:0円 (予算額:13,008,253円)</p> <p>減少理由:中国側の決定により、事業が実施されなかったため</p>	3月、10日間	中国上海市	年度当初は3月実施の可能性を探ってきたが、主催者である中国国家漢弁の意向で2013年度は実施見送りとなった。	
4	<p>日韓の中高校生交流の実施(継続事業)</p> <p>決算額:5,078,798円 (予算額:3,175,390円)</p> <p>増加理由:2013年3月の費用精算分が増加、参加者審査会回数増による出張増のため</p>	3月、5日間	韓国ソウル	日本で韓国語を学ぶ中高校生と韓国で日本語を学ぶ中高校生の交流プログラムの2回目を秀林文化財団と共催で12月に実施した。2013年度は、日本の中高校生の参加人数を9名から16名に増加し全国を対象に公募するとともに、韓国側の参加者は韓国日本語教育研究会のソウル支部と京畿道支部の協力を得て同数の16名を選考した。Hi Seoul Youth Hostelで4泊5日の合宿型で行ったプログラムは、K-POPダンス、日韓の料理づくり、買い物など中高校生の関心が高い活動を組み込んだ。5日間の共同活動を通して、参加者が異なる考え方・価値観を持つ人たちとの関係づくりや互いの言語の学習に対する関心を高めることをめざした。	共催:秀林文化財団 特別共催:秀林日本語学校韓国事務所 後援:秀林外語専門学校 助成:双日国際交流財団、日韓文化交流基金 協力:韓国日本語教育研究会、高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク、国際交流基金ソウル日本文化センター 輸送協力:ANA
5	<p>交流事業に関するネットワーク活動(定期事業)</p> <p>決算額:386,492円 (予算額:1,343,400円)</p>	通年	東京、広島、大阪など	TJFが交流事業を推進していくためには、協働学習、国際理解教育、異文化間教育、情報教育等の分野における国内外の教師や専門家とのネットワークが重要である。海外に日本語教師として派遣された日本の小中高校の教員を主な会員とする国際教育ネットワーク/REX-NETの活動に協力するほか、協働学習や情報教育関連のセミナーなどに参加し、こ最新情報を収集するとともに、関係者とのネットワークづくりを行った。	

公4 TJFの広報活動

22,617,568円
(内、公4共通費用*11,421,142円)

1	<p>機関誌『国際文化フォーラム通信』の発行とサイトの運営(定期事業)</p> <p>決算額: 5,369,545円 (予算額: 3,099,120円)</p> <p>増加理由: 100号記念号のカラー印刷費。同、英中韓版作成費増加のため</p>	<p>98、99号: 4月/7月発行 100号: 日本語版、12月発行</p>	<p>日本国内、海外、TJFサイト</p>	<p>TJFの事業と関連するテーマで特集を構成した98号、99号を発行。98号ではTJFが大連教育学院と共同制作した日本語教材『好朋友』が日本語の学びに与える効果を検証した。99号では、「外国語学習のめやす」プロジェクトの監修者である當作靖彦教授による、グローバル社会で日本人が生きていく方策についてさまざまな分野の第一線で活躍する方々へのインタビューなどをまとめた。</p> <p>100号はデザインも内容も一新して制作。歴代事務局長のインタビューと現スタッフの10問10答から、これまでの事業の歩みと今後の方向性、スタッフの素顔を伝えた。日本語版は2013年12月に発行。続いて英、中、韓国語版の翻訳等に着手した。3言語版は2014年度に発行し、TJFの事業にこれまで関わった人たちに配付する。</p>	
2	<p>事業報告と広報資料の作成(定期事業)</p> <p>決算額: 1,398,519円 (予算額: 2,031,860円)</p> <p>減少理由: パンフレットの新規制作を取りやめたため</p>	<p>①日本語・英語: 6月 中国語・韓国語: 7~9月 ②9月</p>	<p>日本国内、TJFサイト</p>	<p>①事業報告の日本語版は2013年度実施事業の全体像と各事業のデータを掲載するとともに、TJFの交流事業の目標、内容、方法などについてまとめた。2014年度の主要事業についても展望を示した。日本語版800部、英語・中国語・韓国語版を各100部制作し、関係者に配付するとともに、ウェブサイトに掲載した。</p> <p>②当初、寄付者獲得のためにカラーパンフレットの制作を予定していたが、2013年度は寄付キャンペーンに力を入れることとなったため、既存のパンフレットの増刷で対応した。</p>	
3	<p>ウェブサイトの運営(定期事業)</p> <p>決算額: 2,044,557円 (予算額: 4,986,748円)</p> <p>減少理由: サイトリニューアル作業の遅れのため</p>	<p>通年</p>	<p>TJFサイト</p>	<p>2014年のWindows XPのサポート終了に向けてPC機器を入れ替えたほか、ネットワークの環境整備、セキュリティの強化、アプリケーション環境の統一などを行い、業務の質の向上と効率化を図った。</p>	
4	<p>支援者獲得のための広報活動(新期事業)</p> <p>決算額: 2,383,805円 (予算額: 2,509,000円)</p>	<p>通年</p>	<p>TJFサイト、東京など</p>	<p>TJFの事業に共感する人たちが参加しやすいイベントとして、講座「りんごをかじろう」を開始した。第1回はタイ語をテーマに、講師にタイ人留学生であり、日本語教師・通訳・アニメソング歌手など多彩な活動で大人気のびーむ先生ことPeethong Sittarutさんを迎え、12月14日(土)に実施し、40名を超える参加者を得た。このイベントを公式facebookページのファン増加に結び付けるなど工夫をすることにより、facebookのファンが目標としていた1000人を超え1600人となった。</p> <p>また、TJFの事業に共感する人たちが寄付しやすい仕組みとして「りんご記念日寄付キャンペーン」を開始し、その広報に力を注いだ。</p>	

*各公益目的事業に係る費用(給料手当、福利厚生費、消耗品、賃貸料など)